

## 道徳の時間で活用する ～相互理解、寛容～

岩国市立川下中学校 菊地 泰彦

### 1 本場面におけるポイント

#### ● 道徳的価値への気づきを促す資料とともに使用

見方が一つではない図を見ることにより、物事の考え方が一つではないということ  
を気付かせるとともに、それが文章としてまとめられている本資料を読むことを通し  
て道徳的価値に気付くことができる。

### 2 授業の実際

#### 1 主題名 認め合い学び合う心を 「言葉の向こうに」

#### 2 ねらい

自分と他者との個性の差異を尊重し、広い心で接することの大切さをつかむ。

#### 3 展開

##### (1) 導入 心のノートに使用された絵を見て考える

教 師：「この絵は何に見えるかな？」

生徒A：「アヒル。」

生徒B：「ウサギにも見えるよ。」

生徒C：「アヒルはわかるけど、ウサギはよくわからない。」

#### □ 指導上の留意点

導入で、二通りの見方ができる絵を提示した。  
多くの生徒が、アヒルもウサギも見付けることが  
できたが、ウサギに気が付かない生徒もいたため、  
絵の見方を説明した。そして、この絵がよく知ら  
れた作品であったため、他の絵も準備した。



##### (2) 展開 「言葉の向こうに」(P. 78～P. 81) を読む

教 師：「中傷する人と同じレベルで争わないでっ  
て言われて、加奈子はどんなことを思っ  
ているだろう？」

生徒A：「私は悪くない。」

生徒B：「どうして私の方が責められないといけ  
ないの。」

生徒C：「悪いのは悪口を書いてくる方じゃないの。」



- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

同じ仲間であるファンから批判されているということを押さえる。また、「同じレベル」と言われたことが何を指すのか明確にする。

### (3) 終末

教師：「加奈子が発見した『すごいこと』っていったいなんだろう？」

生徒A：「相手の顔を想像すること。」

生徒B：「みんながみんな、自分と同じ考えというわけではないということがわかったこと。」

生徒C：「自分と違う考え方があるということがわかったこと。」

- 指導上の留意点・支援

インターネットでのコミュニケーションで加奈子が見失っていたものは何か、という視点で考えさせる。

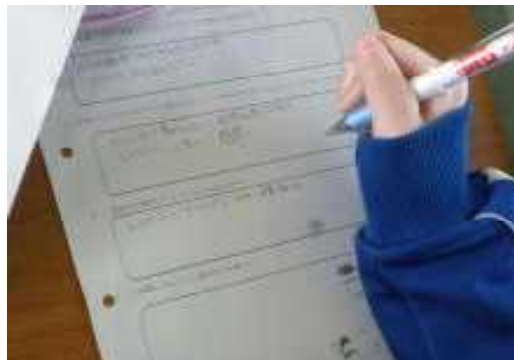
個人で考えさせた後に意見交換をさせ、他の生徒の意見も参考にさせながら自分の考えを深めさせる。また、話合いの結果を発表し、考えを共有させる。



## 3 実践を振り返って

「私たちの道徳」に載っている読み物資料を使用し、「心のノート活用事例集」を参考にし、授業を行った。まず、二通りに見える絵を見ながら考えたことを書き、その後に本資料「言葉の向こうに」を使用するようにした。

生徒たちは、二通りに見える絵に興味を示し、面白がってはいたが、自分と異なるものの見方や考え方に出会ったことはないかという問いに対しては、なかなか記述ができなかった。



この授業では、加奈子が自分と違う価値観や考え方にふれ、自分の狭い視野に気付くところがポイントであるが、先に「異なるものの見方や考え方」について考えた後であったため、容易にポイントを捉える者もいれば、ポイントを捉えられず、導入時の活動とのつながりに気付かない生徒もいた。後者の生徒の意見は「他者の意見や考え方」ではなく、「ネット上のマナー」に視点が向いていたようである。

このようなことから、この授業の進め方は一部の生徒にはとても有効であったと思われるが、逆に、生徒全員が同じように考えられるように進めることができなかったことが反省点である。また、先に「言葉の向こうに」を読んだ後で、心のノートの絵を見て考えるという流れも考えられる。次の実践では、そのような流れの授業を展開したい。